

乳児への mind-mindedness と感情を伴う乳児顔への視覚的注意

乳児の喜び顔と悲しみ顔への反応

¹篠原郁子・^{2,3}森口佑介

(¹愛知淑徳大学,²上越教育大学,³科学技術振興機構)

問題・目的

乳児の身体的特徴（Kindchenschema；丸い眼，高い頬）などは成人の注意を惹起し，養育行動の動機を高める効果を持つことが指摘されている(Rorenz,1943)。静止画を用いた実験から，特に乳児図式の特徴を強く持つ乳児顔は，成人による「かわいい」，「世話をしたい」という評価を高めるという(Glocker et al.,2009)。さらに，乳児顔は成人顔よりも，成人の視覚的注意を惹きつけやすい (Brosh et al.,2007) という実験結果も報告されている。しかし，先行研究では感情価を統制したニュートラル表情のみが用いられており，現実の養育場面で接触するような様々な感情を伴った乳児顔に対する検討を行う必要がある。そこで本研究では，乳児顔としてニュートラル表情に加え，喜び顔，悲しみ顔を検討対象とし，第一に，乳児顔の感情価が成人の注意捕捉効果を増加させるという仮説を検討した。また，これまで乳児顔への視覚的反応として成人全般の特徴が報告されているが，乳児に注がれる成人の注意と，乳児への養育行動との具体的なつながりは検討されていない。これに関して現実の乳児の養育場面では，成人が乳児の表出から感情など多様な心的状態を読み取りながら乳児に関わる行動が注目されている。特に乳児に対して心的世界の存在を想定する傾向である mind- mindedness(MM ; Meins,1997) には，成人間の個人差が指摘されている(篠原,2006)。そもそも乳児に対して敏感に注意を向けやすい成人は，MM という傾向を高く持つのではないだろうか。本論では第二に，特に感情を伴う乳児刺激に対する視覚的注意反応の個人差が，MM，すなわち日常的な場面における乳児の具体的な行動に心的状態を帰属する傾向と関連しているだろう，という仮説を設け検証を行った。

方法

実験参加者：乳児の養育経験のない成人 13 名（男性 3 名，女性 10 名，平均年齢 19.4 歳）。全員が右利きで視力（矯正視力）は正常であった。**乳児顔への視覚的注意の測定**：Brosh et al. (2007) を参考に，乳児顔刺激と成人顔刺激を用いたドットプローブ課題を用いた。PC モニター上に固視点を呈示し（500ms），その後，固視点の左右に成人顔と乳児顔を対呈示した（100ms）。顔刺激の後，画面の左右いずれかにドットが呈示され（200s），参加者にはキー押しによって，ドットが呈示された方向ないし無呈示をできるだけ早く正確に反応するように教示した。全 162 試行のうち，valid 試行（54 試行）では乳児顔が呈示された側に，invalid 試行（54 試行）では成人顔が呈示された側にドットが呈示された。さらにドットが呈示されない 54 試行を加え実施した。刺激として，成人顔は女性のニュートラル表情を，乳児顔はニュートラル表情，喜び顔，悲しみ顔（各 6 種）を用いた。**mind-mindedness の測定**：篠原(2001) を参考に MM 測定実験を実施した。家庭で撮影された乳児の日常場面のビデオクリップを呈示し，ビデオ内の乳児が何らかの心的状態（感情，意図，欲求など）を有していると思うかの評定（7 件法）を求めた。5 つのビデオ刺激に対する評定値の平均を MM 得点とした。

結果と考察

表情条件別に，valid 試行と invalid 試行における正反応の平均反応時間に基づき分析を行った。まず，表情別の valid 試行における平均反応時間について有意な差はなく（ニュートラル表情：197.59ms（SD=66.45），喜び顔：195.55ms（SD=55.87），泣き顔：194.20ms（SD=34.57）），乳児顔の感情価による成人の注意捕捉への影響は認められなかった。また，ニュートラル，喜び，泣きのいずれの条件においても，valid 試行と invalid 試行の平均反応時間に有意差は認められなかった。特にニュートラル表情についての結果から，本実験では先行研究で報告された乳児顔による視覚的注意の捕捉効果が支持されなかった。次に，乳児の心的状態の想定の上やすさについて MM 得点の平均は 5.30 点（SD=.90）であった。表情別の乳児顔への反応時間と MM 得点の相関分析から，喜び顔 valid 試行の反応時間は MM 得点と負の相関（ $r=-.898, p<.001$ ）を持ち，喜び顔への視覚的注意の向けやすさは，乳児の様々な行動に対して感情や欲求など心の状態を読み込む姿勢と関連することが示された。しかし同時に，MM 得点はニュートラル条件における invalid 試行，すなわち成人顔への視覚的注意反応とも有意な相関を有していた（ $r=-.833, p<.01$ ）。これより，乳児顔全般，特にニュートラル表情ではなく，肯定的感情を持つ乳児顔への注意の向けやすさは，乳児に心的状態の存在を想定する傾向と関連することが示唆された。